



令和6年度3学期始業式 式辞



生徒みなさん、新年あけましておめでとうございます。今日の朝は元気に起きることができましたか。朝ごはんは食べることができましたか。今日から3学期がスタートします。もうお正月気分もすっかり抜けたかもしれませんが、お休みモードをしっかりと切り替えて新たな気持ちで学校生活を送るようにしましょう。



年末から年始にかけて各地ではさまざまな種目で大会がありました。また芸能や政治などの分野でもテレビ番組や新聞等で特別番組や報道がありました。テレビやネット、新聞を見た人もいると思いますが、その中には長岡京市に所縁のある選手や芸能、文化人の方々が活躍している姿がありました。長岡京市の小中学校を卒業した後も目標に向かって努力した結果、大きな舞台で活躍できる実力を身に着けたその姿に敬意を払うのと同時に、素直に見習っていきいたい、という気持ちを持ちました。努力を積み重ねて目標を達成し、さらに努力を続けているその姿勢について、長岡京市出身という意味で皆さんの「先輩たち」に続いていけるよう、皆さんのこれからの努力に期待していききたいと思います。

さて、3学期という学期は年度の中では一番短い学期ですが、一年間のまとめをするという意味ではやるものがたくさんある学期です。3年生の皆さんにとっては進路実現のために力を尽くす学期ですし、9年間の義務教育を終えることになる学期でもあります。この3学期に、自分にとって「学ぶ」とは、また「学び続ける」とは、どのような意味を持ち、そのために必要なことは何なのか、をしっかりと考えておいて欲しいと思います。「一生の計は少壮の時にあり」（いっしょうのけい【はかりごととも読む】はしょうそうのときにあり）という言葉もあります（一年の計は元旦にあり、はよく聞きますね）。これは、自分の生涯の生き方については、若くて意気盛んな時期によく考えておくべきであるし、その時の習慣や考えがその後の人生に大きく影響するという意味だと思っています。まさに今の皆さんの時期だと思っています。卒業までのこの3か月が今までよりもより充実した学期になるように期待しています。それから面接の練習が控えていますが、私からは「なぜこの学校を希望したか」「中学生時代で最も頑張ったことは」を聞きます。これが高校の先生が一番聞きたいことだと考えていますので。理由を簡潔に言えるように考えておいてくださいね。

2年生の皆さんはいよいよ4月から中学校の最高学年となり、「学校のリーダー」になります。先日、新しい生徒会本部役員の皆さんと懇談しました。おそらく四中史上最も「激戦」を勝ち抜いた5人の生徒会本部役員への思いや決意は大変素晴らしいものがありました。前本部役員の継承者としてふさわしく、頼もしく感じています。とは言え、この本部役員の皆さんの力だけではどうしようもないので、彼らを支える2年生全体の力が必要です。四中が更により学校になっていくために、2年生集団の力に大いに期待しています。

1年生の皆さんも4月からは部活動や学校生活のあらゆる場面で「先輩」になります。「後輩」に見本を見せたり、具体的に指導したりしていくことも多くあると思います。人に何かを示す時にはまず自分ができていないと格好が尽きませんし、説得力も伴いません。オールマイティに何でもこなせる先輩はもちろん言うことがないとは思いますが、「これだけは!」という譲れない得意分野が魅力的な先輩もいいものです。「これはあの先輩に聞いてみよう」という「後輩」たちに、「語れる」先輩になっていけるよう、まずは自分自身の心の準備と鍛錬をしていて欲しいと思います。

さいごに、令和7年が皆さんにとって希望あふれる素晴らしい年になりますように、明日も楽しく学びに来なくなる長四中の創造をさらに目指していけるように、祈念して始業式の式辞とします。



令和7年1月8日 長岡第四中学校校長 高橋 泰三